

板橋区があきびんの他用途利用の画期的なシステムを構築。
区内「四ツ又商店街」で大規模なカレット利用を実現しました。



「ミノボックス」

板橋区では早くから、市場経済・市場原理に基づいた、カレット入り商品の流通マーケットづくりに取り組んできました。これは、官（板橋区）と民（企業）が共同でカレット入り製品を開発し、商品として市場に乗せる画期的なシステムで、カレットを既存品の単なる代替品としてではなく、カレットならではの付加価値をもった「新素材」として捉えています。

この春完成した区内「四ツ又商店街」の新しいまちづくりへの利用も、その取り組みのひとつです。採用したのは、ワインブロック（インターロッキングブロック）、デザインリサイクルボラード（景観柱）、ミノボックス（景観透水性舗装）、型枠式外壁塗装材など。使用したカレットの量は、ワインびん換算で約50万本で、区民一人一本分に相当します。



「型枠式外壁塗装」地下道入口



「リサイクルボラード」



「ワインブロック」

「2002NEW環境展」と
「エコライフ・フェア2002」に出展しました。

ガラスびんリサイクル促進協議会では、5月28日（火）～31日（金）の4日間、東京ビッグサイトにおいて開催された「2002NEW環境展」に出展。あきびんの品質確保ならびに環境にやさしいガラスびんの認知をめざした展示を行いました。

また6月1日（土）・3日（日）には、代々木公園の園路（NHKホール前）で開催された「エコライフ・フェア2002」にも出展。PETボトルリサイクル推進協議会、紙製容器包装リサイクル推進協議会、プラスチック容器包装リサイクル推進協議会、（財）日本容器包装リサイクル協会と共に、「ちゃんと分けてますか？これがリサイクルの第一歩」というテーマで展示を行いました。



「エコライフ・フェア2002」



「2002NEW環境展」

